平成２９年 １０ 月 ２０ 日

# 平成２９年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立古里中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，平成２９年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

## 【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

平成29年4月18日（火）

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）

中学校　第２学年　　（国語，社会，数学，理科，英語，質問紙）

4　本校の実施状況

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第２学年 | 国語　１３３人 | 社会　１３２人 | 数学　１３３人 |
| | 理科　１３３人 | 英語　１３３人 | |

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

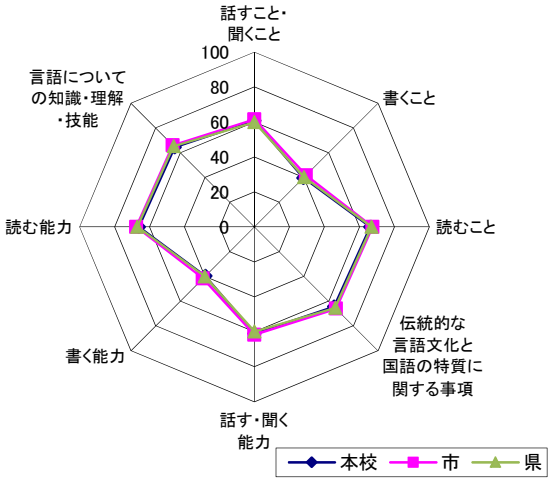
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立古里中学校 第２学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県，市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 話すこと･聞くこと | 60.9 | 61.6 | 59.9 |
| | 書くこと | 39.7 | 41.7 | 40.1 |
| | 読むこと | 66.2 | 67.6 | 67.0 |
| | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 64.5 | 66.1 | 65.4 |
| 観点 | 話す･聞く能力 | 60.9 | 61.6 | 59.9 |
| | 書く能力 | 39.7 | 41.7 | 40.1 |
| | 読む能力 | 66.2 | 67.6 | 67.0 |
| | 言語についての知識･理解･技能 | 64.5 | 66.1 | 65.4 |




## ★指導の工夫と改善

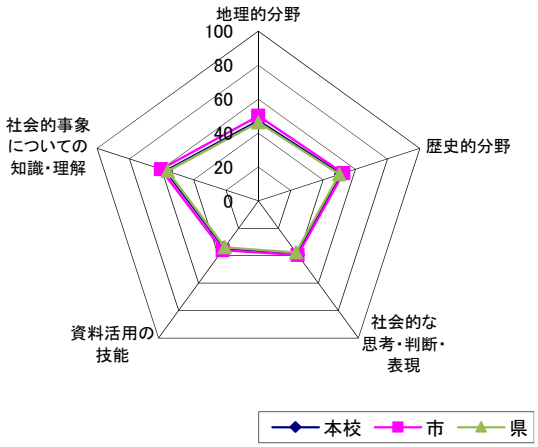
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---|---|---|
| 話すこと・聞くこと | ○平均正答率は県より高い。<br>○話を聞き取ることや出された意見を理解することはよくできている。<br>●平均正答率は市より低い。出された意見をもとに自分の考えをまとめたり、話を構成する設問への解答で正答率が低かった。 | ・今後も、相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って聞き取る学習活動を多く取り入れるようにする一方、それぞれの意見を検討して自分の考えを広げ、自分の言葉でまとめる学習活動を大古取り入れるようにする。<br>・日頃から視野を広げられるよう、地域社会の中で見聞きしたことや、テレビ、新聞などから社会生活の出来事や情報に関心を持たせ、自分の考えが広げられるように指導していく。 |
| 書くこと | ●平均正答率は県、市を下回っている。<br>○カードに書かれた情報をもとに、根拠を明確にしたうえで自分の考えを書くことについては、市･県の正答率を上回っている。<br>●一方で、前後の文脈から意見の方向を推測し誤謬のないように書き直す設問において正答率の低さが目立った。 | ・情報を正しく読み取って根拠を明確にした文章を書くことについては1年のときの意見文演習が功を奏したといえる。もう一度確認し、根拠を明確にして自分の考えを書く練習を繰り返したい。<br>・自由記述のような形式で、さらには自分の思いとは違う他者の立場を慮って記述するという、活用面での苦手が見られた。前項の練習が作文そのもののスキルアップにつながるよう、発展学習を促したい。 |
| 読むこと | ●平均正答率は、県、市よりも低い。<br>○文章中の指示する語句が指し示す内容については県･市の正答率より5%以上の優位性を示している。<br>●目的に応じて文章を読み取ることについては県･市の正答率を6%以上も下回っている。 | ・指示する語句の読み取りについては1年時における基礎の学習であり、定着していることが分かった。今後も文章の構成や展開、表現の仕方について、着目する機会を多く取り入れたい。<br>・正確に読み取ることについては高い水準であるものの、目的に応じて読むなど、活用面での苦手が読むことについても見られた。情報の伝達や利用についての応用的な学習を取り入れていくようにしたい。 |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | ●平均正答率は、県、市よりも低い。<br>○設問を見ると、日常生活に頻出する語句に関するものについては正答率が県･市の平均正答率を上回っている。<br>●日常生活であまり使われず、学習場面でしか扱うことのない内容については正答率が低かった。 | ・漢字の読み書きを身に着けさせるために、漢字プリントを配布し、確認テストを行う。<br>・文法や語句の知識については、使用頻度の少ないものについても用例の紹介や短作文の練習などを多く取り入れ、知識の増大が、言語活動の上で相手によりよく伝えられるもととなることを意識できるような学習活動を計画していきたい。 |
| | | |

# 宇都宮市立古里中学校 第２学年【社会】分類・区分別正答率

## ★本年度の県，市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 地理的分野 | 47.2 | 50.0 | 46.2 |
| | 歴史的分野 | 51.3 | 52.6 | 50.2 |
| | 社会的な思考・判断・表現 | 39.2 | 39.4 | 37.6 |
| | 資料活用の技能 | 34.3 | 35.9 | 33.8 |
| | 社会的事象についての知識・理解 | 57.4 | 60.4 | 56.3 |




## ★指導の工夫と改善

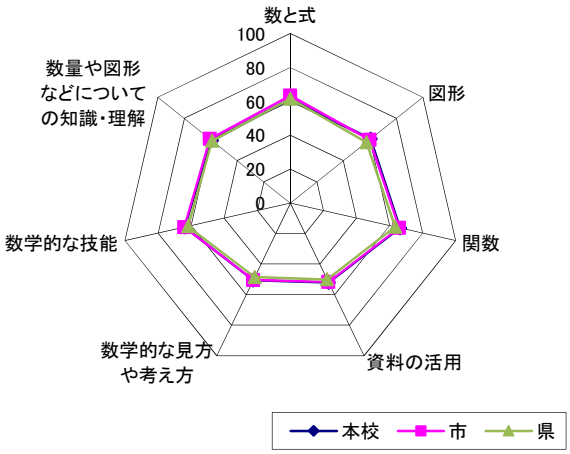
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 平成２９年４月１８日（火） | 今後の指導の重点 |
|---|---|---|
| 地理的分野 | ●平均正答率は県の平均よりも高いが、市の平均よりは低い。<br>○アジア州に位置する山脈の名称を答える問題は県平均を10%以上高い。<br>○東南アジア諸国の輸出品が変化した原因を考察する問題は7%上回っている。<br>●資料から気候帯を推測し、その分布を選択する問題では、県平均を6．5%下回っている。<br>●オーストラリアとニュージーランドの先住民に関する問題では市平均を10%下回っている。 | ・名称を答えるような知識を問われる問題の正答率は高い。しかし、選択肢の中から語句を選ぶ問題では、正答率が下がった。<br>混同しやすい事柄に関しては、図表を用いてまとめるなど、今後も指導の工夫をしていく。<br>・気候帯の分布図と景観の写真を結びつける問題の正答率が低い。複数の資料を関連付けて考える力を伸ばす必要がある。 |
| 歴史的分野 | ○出土品の分布から縄文時代について考察する問題は県平均より6%高い。<br>○各時代の仏教に関する資料を年代の古い順に並べ替える問題は県平均を10%上回っている。<br>●平均正答率は県の平均よりも高いが、市の平均よりは低い。<br>●資料に示した人物が活躍した時代区分を選択する問題では、県平均を6．5%下回っている。<br>●資料から東アジアの国々の関係を読み取る問題は8%下回っている。 | ・時代区分とその時代を代表する事柄との結びつきが不十分であった。その時代のまとめを行う際に、特徴をまとめていきたい。<br>・地理的分野同様に、資料を読み取る力を伸ばす必要がある。解答をみると、複数の資料に触れて解答することができていない生徒が多かった。理解はしているが、文章で書くと、不十分な解答が多いようである。知識をもとにした思考力・判断力・表現力の育成を図ることができるよう工夫する。 |
| | | |

# 宇都宮市立古里中学校 第２学年【数学】分類・区分別正答率

## ★本年度の県，市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 数と式 | 61.4 | 63.3 | 61.5 |
| | 図形 | 60.6 | 59.8 | 57.4 |
| | 関数 | 66.3 | 65.9 | 63.4 |
| | 資料の活用 | 52.1 | 51.7 | 50.1 |
| 観点 | 数学的な見方や考え方 | 50.6 | 50.4 | 48.5 |
| | 数学的な技能 | 63.9 | 64.1 | 61.9 |
| | 数量や図形などについての知識・理解 | 59.2 | 60.6 | 58.9 |




## ★指導の工夫と改善

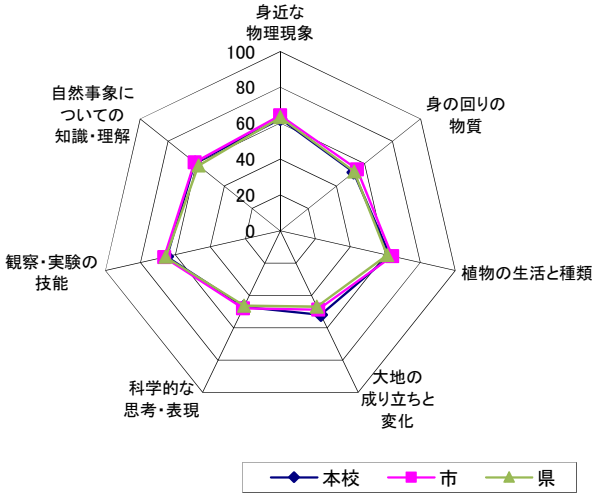
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---|---|---|
| 数と式 | ●平均正答率は県，市よりも低い。<br>○与えられた解をもつ一次方程式を選ぶ問題では，県平均正答率より9．2%高く，正負の数の計算（四則混合）においても，県や市の平均正答率より高い。<br>●与えられた図と式から，問題にあった自分の考えを書く問題では，本校の正答率は県や市より低い。 | ・できるだけたくさんの計算練習ができるよう，授業開始後の5分間は，計算ドリルを行っている。継続的に行うとともに，積極的に多くの練習問題に取り組ませていきたい。<br>・学びあい活動を充実させ，数学的思考力を高めたいと考える。また，式や途中計算の意味について考えさせていくことの習慣化に向けて指導を強化していきたい。 |
| 図形 | ○平均正答率は県，市よりも高い。<br>○おうぎ形の面積を求める問題では，本校の正答率は県平均正答率より14．4%高く，市平均正答率より11%高い。<br>●三角形の2辺が重なるように折り，折り目を作図する問題や，直方体において，ある辺とねじれの位置にある辺を選ぶ問題が，県や市の正答率より低い。 | ・平均正答率は，県平均正答率より3．2%，市平均正答率より0．8%高かったが，昨年度に学習した作図，空間図形の見方については，改めて復習の時間をとって再確認していく必要がある。 |
| 関数 | ○平均正答率は，県，市よりも高い。<br>○比例のグラフから式を求める問題では，本校の正答率は県平均正答率より9．2%高く，市平均正答率より4．8%高い。<br>●座標を与えられた点を記入する問題が，関数分野の中で最も正答率が低い。 | ・座標を与えられた点を記入する問題が，関数分野の中で最も正答率が低かったことから，1次関数において，比例，反比例の復習を行いつつ，基礎事項を徹底させたい。 |
| 資料の活用 | ○平均正答率は県，市よりも高い。<br>○ヒストグラムをもとに特徴を見出し，よりよいものを選び理由を説明する問題では，本校の正答率は県平均正答率より10．2%高く，市平均正答率より9．5%高い。<br>●度数分布表をもとに，ある階級の相対度数を求める問題では，本校の正答率は県平均正答率より5．5%低く，市平均正答率より10．3%低い。 | ・正答率は県や市より上回ってはいるが，正答率は52．1%という結果であった。用語の意味や計算の仕方を忘れている生徒が多く，改めて復習の時間をとって再確認していく必要がある。 |
| | | |

# 宇都宮市立古里中学校 第２学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県，市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 身近な物理現象 | 62.4 | 64.3 | 63.2 |
| | 身の回りの物質 | 52.3 | 54.8 | 52.8 |
| | 植物の生活と種類 | 62.8 | 64.0 | 61.1 |
| | 大地の成り立ちと変化 | 52.0 | 48.8 | 47.0 |
| 観点 | 科学的な思考・表現 | 47.1 | 48.0 | 46.4 |
| | 観察・実験の技能 | 64.9 | 66.4 | 65.6 |
| | 自然事象についての知識・理解 | 60.8 | 61.1 | 58.3 |




## ★指導の工夫と改善

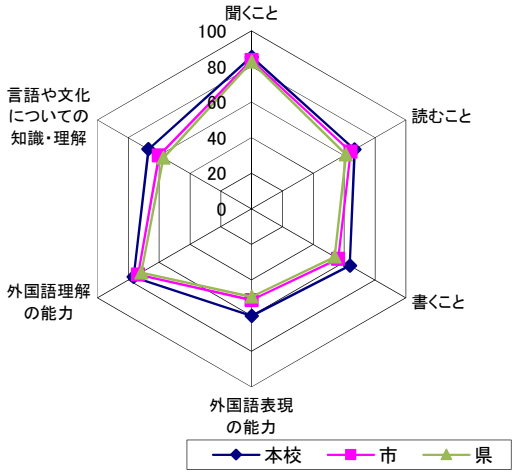
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---|---|---|
| 身近な物理現象 | ●平均正答率は、県・市より低い。<br>●凸レンズに入る2本の光の進み方についての問題、手が物体を支えている力の表し方の問題の正答率が低い。<br>○鏡で反射した光の進む道筋を記録する問題、光の反射の規則性から、鏡に映る範囲を推測する問題の正答率は高い。 | ・光と音の単元については、光の反射、振幅や振動数の基本は理解できているが、思考を伴う応用問題、作図問題を苦手としている傾向がある。実験後の考察を確実に行い、記述したり発表したりする時間をとり、応用力・表現力を身につけさせたい。 |
| 身の回りの物質 | ●平均正答率は、県・市より低い。<br>○水溶液中の溶質の様子を表す粒子モデルを推測する問題、水が氷に変化したときの質量の変化についての問題の正答率が高い。<br>●ガスバーナーの適切な操作方法についての問題、液体を安全に加熱するために加える物体についての問題の正答率が低い。 | ・ガスバーナーの使い方を中心に、安全に実験を行うための操作のしかたを復習する。実験のときに、なぜその操作を行うかなどを考えさせる時間をとりながら技能を定着させていきたい。 |
| 植物の生活と種類 | ●平均正答率は、県よりも高いが、市よりは低い。<br>○植物の蒸散の実験で水面に油をたらす理由を説明する問題、水の減少量と気孔の数の関係について説明する問題の正答率が高い。<br>●シダ植物の特徴、胚珠がむき出しの植物のなかまの名称についての問題の正答率が低い。 | ・植物のなかまの名称や分類の基準について、図で示しながら自分の言葉で説明するなどの時間をとって確実な知識の定着を図っていきたい。<br>・顕微鏡の使い方については定期的に振り返るようにする。また、実験を行う際には、その理由を必ず押さえるようにしたい。 |
| 大地の成り立ちと変化 | ○平均正答率は、県・市よりも高い。<br>○初期微動に続いて起こるゆれの名称、白っぽい鉱物の種類、震度やマグニチュードに関する問題は、正答率が高い。<br>●観察の結果や表を基に火山の形を推測する問題、地層の様子から海の深さの変化について考察する問題の正答率が低い。 | ・火山や地層の問題では、ただ単純に用語を記憶をすることは難しいため、実物や映像を用いながら、知識の定着を図っていきたい。<br>・現在の様子から過去の大地の変化を推測する問題が苦手である。写真や映像から過去の大地の変化を推測させる時間を取り、思考力・表現力を身につけさせたい。 |
| | | |

# 宇都宮市立古里中学校 第２学年【英語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県，市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 聞くこと | 85.4 | 83.6 | 82.6 |
| | 読むこと | 66.8 | 64.2 | 61.2 |
| | 書くこと | 63.7 | 56.2 | 53.8 |
| 観点 | 外国語表現の能力 | 60.1 | 51.2 | 49.4 |
| | 外国語理解の能力 | 76.5 | 73.7 | 71.5 |
| | 言語や文化についての知識・理解 | 67.0 | 60.1 | 57.3 |




## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---|---|---|
| 聞くこと | ○本校の正答率は、市・県平均よりは高いが、他の領域に比べると市・県との差が小さい。<br>○単文の聞き取りやまとまりのある英語の聞き取りの正答率が良好。<br>●対話文や疑問文の聞き取りの正答率がやや低い。 | ・まとまりのある英文を聞いて、概要や要点を聞き取る力を伸ばすために、ポイントとなる情報をメモしながら聞く練習を継続していく。<br>・英語を聞き取る活動をALTとのやりとりの中で多く取り入れていくことで、対話文を聞きとる力を伸ばしていく。 |
| 読むこと | ○本校の正答率は、市の平均より2．6%、県平均よりも5．6%高い。<br>○文法の理解や英語の案内などの読み取りの正答率は良好である。<br>●まとまりのある英語や長文の読み取りの正答率がやや低い。 | ・様々なまとまりのある英文や長文に多く触れさせ、簡単な日本語で概要をまとめさせる練習を継続し、要点をつかむための読み方の指導に力を入れていく。<br>・英文の内容に関する英語や日本語の質問に正しく答えられるように、様々な問答を繰り返し行う。 |
| 書くこと | ○本校の正答率は、市平均より7．5%、県平均より9．9%高い正答率となっている。語順の並び替えや、テーマに基づいて3行以上の英文を書く記述式の設問の正答率は良好である。<br>●場面・状況に応じた英作文の正答率はやや低い。 | ・英作文を書くための基本的な語彙力や文法を定着させるために、単語テストや文法テストを継続して行っていく。<br>・様々な形態でスキットづくり（場面・状況を考え、対話の流れを意識した対話文を作成すること）を行い、与えられた場面や対話の流れに合うように英語で表現する練習を多く取り入れる。<br>・テーマに基づいて英作文を書く練習を継続して行っていく。<br>・より充実した内容の英作文を書くために、必要な関連語句や様々な表現を紹介する。 |
| | | |

# 宇都宮市立古里中学校 第２学年 生徒質問紙調査

**★傾向と今後の指導上の工夫**　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「自分はクラスの人の役に立っていると思う（肯定的回答67．7％）」、「自分には、よいところがあると思う（肯定的回答81．2％）」、「自分の行動や発言に自信をもっている（肯定的回答67．7％）」が県平均よりそれぞれ10％以上高いことから自己肯定感をもち、満足した学校生活を送っている生徒が多いと思われる。
○学習における取り組みでは、「授業を集中して受けている（肯定的回答98．5％）」、「勉強していて面白い、楽しいと思うことがある（肯定的回答82．7％）」、「勉強していて「不思議だな」「なぜだろう」と感じることがある（肯定的回答91％）」などから落ち着いた雰囲気の中、興味関心をもち集中して授業に取り組んでいることが分かる。
○「授業ではクラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている（肯定的回答が92．5％）」、「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる（肯定的回答72．2％）」、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる（肯定的回答95．5％）」などの肯定的回答が高く、いずれも県平均より上回っている。この結果は、言語活動の充実に向けた本校の取り組みの成果であると考えられる。
●一方、「クラスは発言しやすい雰囲気である（肯定的回答72．2％）」（県平均76．2％）と授業に関する質問では唯一、県平均よりも低い数字になっている。このことを今後の課題とし、方策を採る必要があると思われる。
○家庭学習では、「自分で計画を立てて勉強している（肯定的回答が72．9％）」と県平均よりも9．9％、「家で学校の宿題をしている（肯定的回答が98．5％）」と県平均よりも4．9％、いずれも県平均よりも上回っている。家庭学習の習慣がついており、本校での家庭学習ノートの取組も成果の一端を担っていると思われる。また、「宿題は自分のためになっている（肯定的回答91．7％）」、「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う（肯定的回答92．5％）」から意義を理解しながら学習に取り組んでいることが分かる。
○教科に関する興味関心については、「次の教科などの学習は好きですか」の質問に対しては、国語（肯定的回答82．6％）、技術・家庭（肯定的回答84．2％）、総合的な学習の時間（肯定的回答91．0％）、学級活動（肯定的回答92．5％）などが80％を超える。また、80％を超えていないが県平均より肯定的回答が大きく上回る教科に英語78．2％（県64．4％）がある。
○「次の教科などの学習は、将来のために大切だと思いますか」の質問に対しては、国語（肯定的回答97．7％）、保体（肯定的回答90．2％）、技術・家庭（肯定的回答92．5％）が90％を超えている。このことから、生活に密着している内容を学ぶ教科に関心が高い傾向があると思われる。

# 学力向上に向けた学校全体での取組

**★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること**

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|---|---|---|
| 言語活動による思考力育成を目指した授業づくり | ・自分の考えを書いてまとめ、発表する活動を行う。<br>・個々の考えを練り上げる活動を行う。 | 生徒質問紙で、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」について、肯定回答が63．9％で、昨年の本校の回答より5．4％減少し、今年の宇都宮市の平均より少なくなった。しかし、県の平均と比べるとまだ1．8％多い。 |

**★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと**

| 調査結果等に見られた課題 | 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 |
|---|---|---|
| 生徒は、5教科について「好き」の割合が高く、家庭学習の取り組みについても良好であるにも関わらず、学習の定着状況は、英語以外の教科で、宇都宮市の平均を下回る項目がある。 | ・基礎基本の定着を目指した授業の工夫<br>・学力向上につながる家庭学習ノートの活用 | ・授業中に基礎基本を確認させるとともに、宿題や豆テスト、単元テスト等で習熟状況を確認する。<br>・これまで生徒に任せてきた家庭学習ノートの内容を、各教科で指示を出し、その中から選択する方法をとる。 |